

JA庄内たがわ なら防除暦

2023.12.1 時点の農業登録情報をもとに作成

令和6年度(2024年)版

防除時期	薬剤名	対象病害虫(雑草)	希釈倍数	水100ℓ当たり薬剤量	使用時期(収穫前日数)	使用回数	備考
定植時	トクチオン細粒剤F	ネダニ類	6~9kg/10a		定植時	1回	全面土壌混和又は植溝土壌混和
刈揃え前	バリダシン液剤5	葉腐病、白絹病	800倍	125ml	刈り揃え前まで	3回以内	・排水対策を徹底する、過繁茂にならないようにする ・株養成中のみ(収穫が始まってからの刈り捨て時には使用できません)
生育期	トリフミン水和剤	さび病	2000倍	50g	収穫14日前まで	3回以内	
	Zポルドー	株腐細菌病、白斑葉枯病	500倍	200g	—	—	
	コサイド3000	褐斑細菌病、黒腐病、軟腐病、斑点細菌病	2000倍	50g	—	—	野菜類での登録
	ストロビーフロアブル	白斑葉枯病、さび病	3000倍	33ml	収穫前日まで	3回以内	展着剤使用しない
	セイビアーフロアブル20	白斑葉枯病	2000倍	50ml	収穫7日前まで	1回	
	ポリオキシシンAL水溶剤		1500倍	66g	収穫14日前まで	1回	
	アフエットフロアブル	さび病、白絹病、白斑葉枯病	2000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	
	ガードベイトA	ネキリムシ類	3kg/10a		収穫3日前まで	3回以内	株元散布
	ディアナSC	アザミウマ類	2500~5000倍	20~40g	収穫前日まで	2回以内	
	アグロスリン乳剤(劇)	ネギアザミウマ、ネギコガ、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類	2000倍	50ml	収穫7日前まで	3回以内	
	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	アザミウマ類、アブラムシ類	4000倍	25g	収穫前日まで	3回以内	
	リーフガード顆粒水和剤(劇)	ネギアザミウマ	1500倍	66g	収穫7日前まで	2回以内	
	ハチハチ乳剤(劇)	ネギアザミウマ	1000倍	100ml	収穫14日前まで	1回	
	アブロードフロアブル	ネダニ類	500~1000倍	100~200ml	収穫14日前まで	1回	収穫後、茎葉が伸びだす前に株元灌注する、1㎡当たり1~3ℓ灌注する
刈取直後	トップジンM水和剤	白斑葉枯病、乾腐病	1000倍	100g	収穫21日前まで	1回	1㎡当たり3ℓ灌注する
	フロンサイド粉剤	白絹病	20kg/10a		収穫30日前まで	1回	秋の刈り取り直後に株元散布する
除草剤	ナブ乳剤	1年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	150~200ml/10a(薬剤量) 100~150ℓ/10a(散布液量)		雑草生育期イネ科雑草3~5葉期、 収穫前日まで	1回	雑草茎葉散布 又は全面散布
	ロロックス	1年生雑草	100~150g/10a(薬剤量) 70~150ℓ/10a(散布液量)		雑草発生前、収穫30日前まで	1回	全面土壌散布、砂土では使用しない
	クレマートU粒剤	1年生雑草	4~6kg/10a		定植後(雑草発生前)、定植10日後まで	1回	全面土壌散布
	ゴーゴーサン乳剤	1年生雑草	200~300ml/10a(薬剤量) 100ℓ/10a(散布液量)		定植後(雑草発生前)但し定植10日後まで 収穫30日前まで(雑草発生前)	1回	全面土壌散布 畦間土壌散布
	バスタ液剤	1年生雑草	300~500ml/10a(薬剤量) 100~150ℓ/10a(散布液量)		定植前(雑草生育期) 収穫前日まで(雑草生育期)	3回以内	雑草茎葉散布 畦間処理(雑草茎葉散布)

・使用時期の「収穫前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで収穫できないことを示します。

適正管理について！

1. 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。
2. 圃地の適正な排水管理を行う。
3. ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等を出来る限り使用する。
4. みつばちへの配慮を行う。

防除器具の農業残留に留意！！

- ・防除器具は、前回散布後に充分洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調整後にもう一度通水し洗浄しましょう。
- ・防除器具は使用后、通水で3回以上洗浄しましょう。
- ・洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。